

平成 26 年 6 月 10 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22330102

研究課題名(和文)取引の一時性・季節性そして空間性がもたらす貨幣間の補完性についての国際共同研究

研究課題名(英文) International Cooperative Research on the Complementarity among Monies Caused by Temporality, Seasonality, and Locality in Making Transactions

研究代表者

黒田 明伸 (Kuroda, Akinobu)

東京大学・東洋文化研究所・教授

研究者番号：70186542

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 15,200,000円、(間接経費) 4,560,000円

研究成果の概要(和文)：貨幣間の補完性に関し、高等師範学院(パリ)、東京大学、イェール大学、パリ財経学院にて各年度国際会議を開催。匿名性と指名性、現地通貨と地域間決済手段の二つの軸から貨幣制度の個性をとらえることができるとの黒田明伸の問題提起に関わり、虚構貨幣、暫時的通貨、個人信用の通貨化、有利子紙幣、無通貨交換など古今東西の事例を挙げながら議論がなされた。貨幣制度は社会関係と相互規定的な関係にあるということがこれらの議論の基底にある含意であり、スミスの成長論のような市場を独立にとらえる理解への反論でもある。今後Character of Moneyの表題の下、国際的かつ学際的な進展をはかることが期待される。

研究成果の概要(英文)：Holding four international conferences at Ecole Normale Superieure(Paris), U of Tokyo, Yale, and Paris School of Economics, this project reached a viewpoint as follows. We can determine the character of money according to the degrees along two axes. First, to what extent is the relationship between persons making transactions biased in either the direction of cohesiveness or of anonymity. Second, to what extent the conversion between the currency for local transactions and that for inter-regional settlements worked according to fixed or flexible conversion rates.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済史

キーワード：貨幣 補完性 国際共同研究 季節性 現地通貨 世界史 匿名性 指名性

## 1. 研究開始当初の背景

本研究の学術的背景について、経済史、貨幣論、市場理論の三階層にわけて述べる。

棉花などの買い付けの時、農民に手渡す通貨が足りないがために取引がとどこおり、その通貨を調達しようとする、買い付け者たちが使う別の貨幣に対するその通貨の相場が急騰してしまい、また取引が困難になる。研究代表者の黒田は近代中国経済史を研究するなかでこのような現象をみいだしたのだが（『中華帝国の構造と世界経済』名古屋大学出版会、1994年）実はそれは普遍的な現象であり、黒田は『貨幣システムの世界史』（岩波書店、2003年）における世界史大の比較分析を通し、貨幣たちの間には分業関係があり、単純に和算されえない関係にあることを示した。その後、貨幣間の代替的ではなく補完的な関係が貨幣に多元性をもたらすとの仮説に到達し、それを検証すべく、「世界史にみる貨幣流通の非均質性、補完性についての研究 自律的で共存的な貨幣システムの可能性を探る」のテーマにより2005年度トヨタ財団研究助成をうけ、9カ国12人の同僚と世界史大の比較検討を行った。その成果はヘルシンキでの14回国際経済史学会（2006年8月）で単独の部会として披瀝され、最終的には貨幣金融史の専門学術誌 *Financial History Review*(CUP)14巻1号（2008年）の多元的貨幣特集号の5本の論文として公刊された。同特集号の「貨幣間の補完性とは何か」と題された黒田の巻頭論文は欧米で引用されはじめている（例えばGareth Austin, 'Re-considering markets in precolonial West Africa, c1450-c1890' Paper for African Economic History Workshop, LSE, 6 May 2009）。

アメリカ民俗学会年次総会（バンクーバー、2009年5月）の基調講演で西アフリカをフィールドとしてきた Jane Guyer が

黒田の貨幣史研究の内容を紹介したように、貨幣の多元性とそれらの間の補完性という視点にすばやく反応したのは欧米のアフリカ研究者たちであった。それは故なきことではない。外国銀貨、綿布、貝貨などさまざまな非公式通貨が併存して流通してきた現象に対し、代替関係を基本にした視点からでは、それらが何を意味しているのか有効な説明を与えられずにいたからである。

貨幣間の補完性という視角は、主流的経済学における貨幣の中立性、さらには18世紀末の政治経済学創設時に前提とされた一国一通貨制へのアンチテーゼでもあるため、市場経済を政治・社会の枠組みの中で考えようとする社会科学者の関心を集めつつある。レギュラシオン経済学の Bruno Théret は、彼が主催したパリ大学での1999年から2004年までの連続講演会をもとに、フランスにおける人類学・経済学・歴史学の第一線の学者の貨幣に関する論考30本を集めた *La monnaie dévoilée pas ses crises*(EHESS,2007)を編んでいるが、貨幣を中立的なものにとらえる新古典派経済学に対する批判をねらいとしていた。2005年の黒田のパリでの講演以降、世界史大の比較に基づく黒田の多元的貨幣理解に強い関心を示し、黒田とともに、2009年8月のユトレヒトでの世界経済史学会において貨幣単位の多元性についての部会を主催した。

## 2. 研究の目的

貨幣はなぜ単一にならないのか。国家を超えて共通通貨をもつこともあるが、国家の中に事実上複数貨幣が併存することはけっしてめずらしいことではなく、むしろ18世紀までは人類のほとんどが複数の貨幣を使って交易をなしてきた。複数になるのは需要が異なるからであり、需要が異なるのは取引の多

様な一時性と季節性が異なる空間分布をもって働いているからである。一方で、そうした不均質に分布する需要に応えるように単一の通貨を供給することは容易なことではなく、同じ通貨を異なるように評価したり、地域的な貨幣や地域的な信用供与を創造したりして対応することになる。国際共同研究により、貨幣需要における時間と空間の分布の不均質さが裁定による均質化を上回るが故に貨幣は多元化するという仮説を、世界史上の諸事例により検証する。

### 3. 研究の方法

三階層の方法をとった。第一に、通貨の間たとえば高額通貨と小額通貨の不均質な流通、通貨そのものと通貨的なもの（たとえば為替など）との分業的關係について世界史大の比較対照を行う。第二に、通貨の不均質性と取引に現れる一時性、季節性との相関の有無、さらにその時間的相関が貨幣の地域性などの空間性とさらに相関するかどうかを検証する。第三に、散布するより回収する方が難しい小額通貨の特性や農業周期がもたらす貨幣需要の季節性が、地域間格差を埋める裁定行為によって十分に克服されるものなのかを検証する。その際、1960年代に英米で行われた流通硬貨調査に現れた非還流硬貨の統計などが参照される。経済学、歴史学、古銭学、人類学に流体力学を加えた学際的な国際ワークショップ（毎年開催）を通して三階層の作業を調整かつ連動させていく。成果は世界経済史学会での部会開催、国際学術誌掲載により公にしていくこととした。

### 4. 研究成果

まずパリ高等師範学院でワークショップ「貨幣史と貨幣理論の脱目的論化 (I)」を開催（2010年12月）。貨幣制度の多様性

を社会関係との相互依存性から考える視点を提示。パリ会議での黒田の基調報告はその後 Socio Economic Review に投稿され、改訂を経て公刊されている。つづいて貨幣需要の季節性に焦点をあてた部会「地域的貨幣需要と世界的通貨供給」を 3rd European Network in Universal and Global History Congress（於ロンドン財経学院）にて開催（2011年4月）。さらに東京大学で「貨幣史と貨幣理論の脱目的論化 (II)」を開催し、世界史上に現れた貨幣間の補完的現象をめぐって議論（2012年2月）。つづいて第16回世界経済史学会（於ステレンボッシュ大学）での部会「手億名的だが多様な貨幣：単一通貨が支配しなかった理由」を開催し、通貨統一の困難さは貨幣というものの本源的性格によるものであるとの視角から中間成果を発表（2012年7月）。歴史上、通貨不足は普遍的であり、それが通貨の地域性を引き起こすとの知見は相当な反応を得た。ひきつづきイェール大学でワークショップ「世界的視野から再解釈する東アジア経済史」を開催（2012年9月）。日本と中国との比較、日東アジアの世界における特殊性を題材にして、スミスの成長論の限界を、市場の多層性・貨幣間の補完性から論じた。以上を踏まえて、総括的なワークショップ「貨幣の質」をパリ財経学院にて開催（2013年12月）。匿名性と指名性、現地通貨と地域間決済手段の二つの軸から貨幣制度の個性をとらえることができるとの問題提起の意義が確認され、マクロでもミクロでもなく、取引者間のクラスターをメゾスコピックに類型化していく方法の確立の重要性を認識した。今後 Character of Money の表題のもとにさらに国際的・学際的検討がすすめられることが期待される。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4 件)

Akinobu Kuroda, 'Anonymous Currencies or Named Debts?: Comparison of Currencies, Local Credits and Units of Account between China, Japan and England in the Pre-industrial Era', Socio Economic Review, 査読有、11-1, 57-80, 2013. doi:10.1093/ser/mws013

黒田明伸、高聡明(訳) 欧亚大陆的白银时代(1276-1359)、思想战线、査読無、38 卷 6 号、79-85、2012

加藤慶一郎、鎮目雅人、幕末維新期の商品流通と貨幣の使用実態について 東讃岐の事例から、社会経済史学、査読有、79 卷 4 号、81-98、2013

[学会発表](計 27 件)

Akinobu Kuroda, 'The Quality of Money: Reflections from Global History', International Workshop 'The Quality of Money', パリ財経学院、フランス、2013 年 12 月 6 日

Akinobu Kuroda, "'FAMINES of CASH": Locality of Money Ubiquitous through Human History', 2nd International Conference for Complementary Currency System、ハーグ国際社会科学研究所、オランダ、2013 年 6 月 20 日、招待講演

Akinobu Kuroda, 'Complementarity among monies in Chinese, Japanese and global history', Is money substitutive or complementary? East Asian economic history in global perspective, Revisiting East Asian Economic History from a Global Perspective, イェール大学、米国、2012 年 9 月 29 日

Akinobu Kuroda, 'The Age of Foreign Silver Dollars', La Dépréciation de l'Argent Monétaire et les Relations Internationales, , パリ高等師範学院、フランス 2012 年 1 月 13 日、招待講演.  
Akinobu Kuroda, 'Unfixed Money: Revisiting Global Monetary History from Mezzoscopic Viewpoint', International Conference the DFG

Research Group 'Monies, Markets and Finance in China and East Asia 1600-1900', チュービンゲン大学、ドイツ、2011 年 10 月 5 日、招待講演

Akinobu Kuroda, 'Seasonality, paper monies, and peasant economy: Revisiting the International Gold Standard System', 3rd European Network in Universal and Global History Congress、ロンドン財経学院、英国、2011 年 4 月 17 日

Akinobu Kuroda, 'Global monetary history from non teleological viewpoint', WORKSHOP Discussing Money Matters: A workshop around Akinobu Kuroda's questions and answers、パリ第十大学、フランス、2010 年 12 月 10 日、招待講演

Akinobu Kuroda, 'Can Credit Substitute Currency? A Comparison of Currencies, Local Credits and Monetary Accounts between China, Japan, and England in Preindustrial Era', 伝統中国商業文化と現代市場秩序、成均館大学、韓国、2010 年 6 月 11 日、招待講演

[図書](計 1 件)

黒田明伸、岩波書店、貨幣システムの世界史:<非対称性>をよむ 増補新版、2014、302

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

[その他]

ホームページ

The Quality of Money

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=TueJul231033402013>

Revisiting East Asian Economic History from a Global Perspective

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=SunJul220641492012>

De-Teleologising History of Money and Its Theory (II)

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=MonNov210804362011>

De-Teleologising History of Money and Its Theory (I)

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/eng/news/news.php?id=20120704032929>

(1)研究代表者

黒田 明伸 (KURODA, Akinobu)  
東京大学・東洋文化研究所・教授  
研究者番号：70186542

(2)研究分担者 なし

(3)連携研究者

西成 活裕 (NISHINARI, Katsuhiko)  
東京大学・先端科学技術研究センター・教授  
研究者番号：40272083

加藤 博(KATO, Hiroshi)  
一橋大学・経済学研究科・特任教授  
研究者番号：10134636

加藤 慶一郎 (KATO, Keiichiro)  
流通科学大学・商学部・教授  
研究者番号：60267862

(4)研究協力者 (海外)

Patrice Baubeau、パリ第十大学、フランス、助教授、経済史

Georges Depeyrot、パリ高等師範学院、フランス、教授、考古学

Farley Grubb、デラウエア大学、米国、教授、経済学

Jane Guyer、ジョンズホプキンス大学、米国、教授、人類学

Claudia Jefferies、ロンドンシティー大学、英国、講師、経済学

Jan Lucassen、国際社会科学研究所、オランダ、教授、経済史

OH Doohwan、仁荷大学、韓国、教授、経済学

Karin Pallaver、ボローニャ大学、イタリア、講師、歴史学

Bruno Theret、パリ第九大学、フランス、名誉教授、経済学